

きょうだい関係とその関連領域の文献目録（追録Ⅱ）

An Additional Bibliography of Sibling Relations and the Related Areas (Ⅱ)

白 佐 俊 憲
Toshinori SHIRASA

はじめに

筆者は、2003～2005年に『きょうだい関係とその関連領域の文献集成』（全4巻、白佐俊憲編著、川島書店）を刊行した。これは、明治以来100年以上にわたる、日本国内で公表された「きょうだい関係とその関連領域」の文献（外国文献の翻訳・引用を含む）を広範囲に収集・収録したものである。第Ⅰ巻の「総合目録編」には、2003年3月末日までに存在を確認した専門的な文献を中心に分類・整理し、総数3,756件を収録した。

第Ⅳ巻の「資料紹介編」の末尾には、407件の「補遺目録」を加えた。これは、第Ⅰ巻刊行後の調査によって、収録文献の一層の充実を図ったものである。収録時限は2004年3月末日とし、これ以前に公表が確認された文献はすべて含めた。資料性の高い文献については、2004年12月末日現在で公表判明分も含めた。収集・収録年限を1年増やしたほか、先の調査で収集範囲が一部にとどまり、不徹底であった看護学・医学分野の領域についても広範囲に再調査を実施した。また、家庭教育・育児などの分野の市販雑誌についても、さらに対象範囲を広げて再調査を実施した。収録漏れが多いと予想される最近の文献については、角度・視点を変えた再調査を実施し、未収録文献の発掘・収集に努めた。新たに発掘した文献を第Ⅰ巻と同様な方法で整理し、一覧にして示した。

ここに収録する「文献目録（追録）」は、年鑑『児童心理学の進歩—2006年版—』（日本児童研究所編、金子書房、2006年6月刊行）において、筆者が最近の「きょうだい研究の動向と課題」をレビューすることになったのを機会に、収録範囲を2005年1月以降にも広げ、また「補遺目録」の手法を更に徹底して未収録文献の発掘・収集に努めたものである。今回の収録数は498件で、これまでのものと合わせると、収録総文献数は4,661件となる。

第Ⅰ・Ⅳ巻と同様な方法で整理し、一覧にして示す。これらには、6000番台の番号を使用して、既収録のものと区別する。ここに追録した文献の内訳を示すと、次のようになる。

1. 単行本の目録 …………… 【6101～6116・A】 16件
2. 単行本内での解説等の目録 …… 【6201～6250・B】 50件
3. 紀要・学会誌等の論文の目録 …… 【6301～6378・C】 78件
4. 市販雑誌の記事等の目録 …………… 【6401～6489・D】 89件
5. 学会での口頭報告等の目録 …… 【6501～6654・E】 154件

6. 卒業論文・修士論文等の目録 … 【6701～6749・F】 49件

7. 辞典・事典類での解説の目録 … 【6801～6805・G】 5件

8. 紹介された欧米語文献の目録 … 【6901～6957・H】 57件

収集・編集方法及び文献事項・その他の記載方法等については、第Ⅰ巻の「総合目録編」に準じているので、ここでは省略する。

なお、目録の掲載に当たっては、掲載誌のページ制限のため、全体をⅠ～Ⅲに3分割して収録することにした。Ⅰとして「浅井学園大学短期大学部研究紀要、第44号、2006」には1～4を収録し、Ⅱとして本誌には5を収録し、Ⅲとして「人間福祉研究（浅井学園大学人間福祉学部研究紀要）、第9号、2006」には6～8を収録した。

5. 学会での口頭報告等の目録

【6501・E】青木康博・三枝 聖・熊谷礼子・中屋敷徳・那谷雅之・橋谷田真樹「同胞関係の存否に関する数量的判別法の比較検討」『日本法医学雑誌（第83次日本法医学会総会講演要旨）』53巻1号, p.155, 1999

【6502・E】秋元義弘「公立病院において子どもを妹（弟）の出産に立ち会わせることの意義、課題」『思春期学（第23回日本思春期学会総会学術集会一般演題・2次抄録）』23巻1号, p.74, 2005

【6503・E】秋山典子・工藤純子・森屋みゆき「子どもの入院に母親が付き添うことによるきょうだいへの影響と支援について」『第31回日本看護学会抄録集—小児看護—』p.15, 2000

【6504・E】新井邦二郎「きょうだいや仲間の少ない子どもたち（幼児の心）」『第30回日本小児保健学会講演集』1983（『小児保健研究（第30回日本小児保健学会・シンポジウム）』43巻2号, p.113～114, 1984）

【6505・E】石川清子「一人親へのソーシャルサポート—生活環境としての兄弟関係—」『日本発達心理学会第16回大会発表論文集』p.386, 2005

【6506・E】石川清美・泊 祐子・古株ひろみ・竹村淳子「障害児きょうだいの社会生活能力における特徴」『第6回日本家族看護学会学術集会講演集』p.55, 1999（『家族看護学研究（第6回日本家族看護学会学術集会一般演題2次抄録）』5巻2号, p.169～170, 2000）（【1465・C】の一部を報告。詳細は【1225・C】に掲載。「石川清美」は「田中清美」の旧姓）

【6507・E】石崎優子・小林陽之助「障害児・難病児の同胞の心理社会的問題に関連する要因」『第48回日本小児保健学会プログラム講演集』p.538～539, 2001

【6508・E】石崎優子・服部祐子・深井善光・長濱輝代・豆板律子・濱田梨恵・木野 稔・中野博光「難病児・障害児の同胞の心理社会的問題—小児科医、学校医、心身症専

- 門医の同胞症例の経験と認識の相違—』『第22回日本小児心身医学会プログラム・抄録集』 p. 63, 2004
- 【6509・E】 泉田順子・三河 文・小島きみ子「長期療養児の兄への母親役割の回復—カルガリー家族看護モデルを用いて—」『日本小児看護学会第12回学術集会講演集』 2002 (詳細は【6308・C】に掲載)
- 【6510・E】 板谷真弓・竹島智子・志賀雅子・浜中章洋「最後まで兄弟の援助を受け入れられなかった症例を振り返って」『死の臨床 (第23回日本死の臨床研究会年次大会・一般演題)』 22巻2号, p. 232, 1999
- 【6511・E】 伊藤紗智子・藤吉倫子・辻井正次「高機能広汎性発達障害児を同胞にもつきょうだいの意識調査—きょうだい支援へ向けて—」『第93回日本小児精神神経学会プログラム・抄録集』 p. 26, 2005 (『小児の精神と神経 (第93回日本小児精神神経学会二次抄録および追加討論)』 45巻3号, p. 283~284, 2005)
- 【6512・E】 伊藤美樹子「障害者のきょうだいの障害者観—障害者ときょうだいと親の関係から—」『日本看護科学学会第23回学術集会講演集』 p. 235, 2003
- 【6513・E】 稲葉 薫「小児外科病棟における子どもの長期入院に伴う母と同胞への影響」『第34回日本看護学会抄録集—小児看護—』 p. 22, 2003
- 【6514・E】 井上敦子「NICUにおいてきょうだい面会を実施した兄姉の面会による気持ちの変化」『第13回日本新生児看護学会講演集』 p. 50~51, 2003
- 【6515・E】 今泉洋子・西田悦雄「多胎児の兄弟姉妹数について」『日本双生児研究学会第17回学術講演会一般講演抄録集』 p. 20, 2003
- 【6516・E】 岩田美保「幼児における弟の意図のくみとりプロセスに関する縦断的検討—1男児の21ヶ月から37ヶ月までの観察から—」『日本発達心理学会第9回大会発表論文集』 p. 202, 1998 (【2546・F】の一部の要旨を報告。詳細は【1246・C】に掲載)
- 【6517・E】 岩田美保「1幼児における因果性への言及の発達—30ヶ月から37ヶ月の発話データから—」『日本教育心理学会第41回総会発表論文集』 p. 679, 1999 (1男児における弟についての因果性への言及内容の検討。【2546・F】の一部の要旨を報告)
- 【6518・E】 岩田美保「幼児・児童期における他者に関する因果性への言及—他者の内的状態を原因とした発話の検討を中心に—」『日本教育心理学会第45回総会発表論文集』 p. 577, 2003 (3人きょうだいを対象にした, 他者についての発話の検討)
- 【6519・E】 岩田美保「幼児・児童期における他者に関する会話—幼児・児童を含む3人きょうだいの家庭観察データの事例的検討—」『日本発達心理学会第15回大会発表論文集』 p. 52, 2004 (詳細は【6309・C】に掲載)
- 【6520・E】 岩田美保「児童期における他者に関する会話—児童期のきょうだいとの夕食時に

- におけるSの自他の内的状態を原因とした因果性への言及—」『日本発達心理学会第16回大会発表論文集』p.376, 2005（詳細は【6310・C】に掲載）
- 【6521・E】岩田美保「子どもの会話にみる“園・教師・仲間”—幼児・児童を含むきょうだいの観察から—」『日本保育学会第58回大会発表論文集』p.838~839, 2005
- 【6522・E】岩田美保「小学生は卒園した園について何を話すか—1組の3人きょうだいの食事場面の園・教師・仲間に関する会話から—」『日本教育心理学会第47回総会発表論文集』p.62, 2005
- 【6523・E】上村佳世子・加須屋裕子「親子三者間相互交渉における子どもの会話参加スキルの発達（2）—親およびきょうだいの発話指向性と2歳半児の会話参入との関係—」『日本発達心理学会第14回大会発表論文集』p.240, 2003（（1）は対象外）
- 【6524・E】江刺優子・小原優子・小林有子・会田栄子・大沼教子「NICUにおける同胞面会に対する家族の認識—家族へのアンケート調査を通して—」『第12回日本新生児看護学会講演集』p.94~95, 2002
- 【6525・E】江守陽子「次子出産による母親の長子に対する関心の変化—母子の相互作用をより効果に促進するための看護—」『日本行動分析学会第15回年次大会プログラム・発表論文集』p.22, 1997
- 【6526・E】逢坂文夫・池見好昭・衛藤 隆・小林至泰「幼稚園児における同胞数および身体的活動性と体温との関連性について」『第53回日本公衆衛生学会総会抄録集（日本公衆衛生雑誌, 41巻10号特別附録）』p.842, 1994
- 【6527・E】逢坂文夫・相川浩幸・池見好昭・田中哲郎・木ノ上高章「子どもたちにおける出生順位と性格との関連性について—父親の育児サポートを中心に—」『日本衛生学雑誌（第71回日本衛生学会総会講演集）』56巻1号, p.404, 2001（詳細は【1758・D】に掲載）
- 【6528・E】逢坂文夫・池見好昭「高層居住と同胞数との関連性について」『日本衛生学雑誌（第75回日本衛生学会総会講演集）』60巻2号, p.265, 2005
- 【6529・E】大川原千代子・中尾秀子・山本美智代・河野和代「入院中のきょうだいの生活—第2報. きょうだいの変化とインフォームドコンセントについて—」『日本小児看護学会第13回学術集会講演集』p.228~229, 2003
- 【6530・E】大島典子・星野仁彦「兄弟例の不登校の発現メカニズムについての—考察」『日本児童青年精神医学会42回総会抄録集』p.133, 2001（詳細は【6311・C】に掲載）
- 【6531・E】大平光子「慢性疾患児とそのきょうだいをもつ母親の養育態度」『第52回日本小児保健学会プログラム講演集』2005
- 【6532・E】大前恵里佳・金城マキ・細谷彩恵子・竹本明香・佐藤弘子・後藤宗理「妊娠中の母親の養育行動が第二子出生後に及ぼす第一子（3歳）の精神発達への影響」

- 『母性衛生（第44回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集）』44巻3号, p.211, 2003
- 【6533・E】大前泰彦・松本直美・上地安昭「姉妹間葛藤をテーマとした不登校児の母子並行面接—時間制限法による母親面接—」『日本カウンセリング学会第27回大会発表論文集』p.75~76, 1994
- 【6534・E】大前泰彦「同胞葛藤と自己評価意識及び対人不安, 孤独感との関係」『日本カウンセリング学会第31回大会発表論文集』p.50~51, 1998
- 【6535・E】大脇万起子・池田亜希子・宮崎孝子・鳥居央子・杉下知子「在宅障害児の家族支援プログラムにおける同胞支援の検討」『家族看護学研究（日本家族看護学会第10回学術集会抄録集）』9巻2号, p.105, 2003
- 【6536・E】岡崎靖子「一卵性双生児における問題行動への対応」『日本カウンセリング学会第26回大会発表論文集』p.147~148, 1993
- 【6537・E】奥山朝子・大高恵美「絵本を通して得たきょうだいの状況理解」『日本小児看護学会第13回学術集会講演集』p.292~293, 2003
- 【6538・E】小黒範子・中村美樹・秋場美智子「広汎性発達障害の同胞例における社会適応」『第92回日本小児精神神経学会プログラム・抄録集』p.22, 2004（『小児の精神と神経（第92回日本小児精神神経学会二次抄録および追加討論）』45巻1号, p.88, 2005）
- 【6539・E】小澤美和・細谷亮太「弟の死が近いことを説明された姉兄の症例を通して—同胞の死の受容を考える—」『死の臨床（第21回日本死の臨床研究会年次大会・一般演題）』20巻2号, p.146, 1997
- 【6540・E】小澤美和・小林明雪子・森本 克・細谷亮太・泉 真由子「小児がん患児の同胞における心理的問題」『日本小児科学会雑誌（第106回日本小児科学会学術集会・一般演題）』107巻2号, p.74(258), 2003
- 【6541・E】笠柄みどり・矢田昭子・光岡攝子「小児がん患児を亡くしたきょうだいの研究—サポートグループきょうだいの会を開催して—」『日本小児看護学会第14回学術集会講演集』p.158~159, 2004
- 【6542・E】風間良子・阿部千鶴・大野美穂子・皆川 薫・西方眞弓「絵本をもちいた幼児期の同胞葛藤に対する働きかけの検討」『第10回日本新生児看護学会講演集』p.82~83, 2000
- 【6543・E】加藤郁子・西村亜希子・井上雅彦「発達障害児のきょうだいの心理的支援プログラムに関する研究（3）—地域の親の会との連携に関する実践—」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.556, 2004（（2）は【5506・E】、（4）は【6544・E】）
- 【6544・E】加藤郁子・難波寿和・井上雅彦「発達障害児のきょうだいの心理的支援プログラムに関する研究（4）—『個別支援シート』の活用についての検討—」『日本特

- 特殊教育学会第43回大会発表論文集』p.346, 2005（（3）は【6543・E】）
- 【6545・E】加藤くに子「思春期にきょうだいが緊急入院した同胞の体験」『日本小児看護学会第13回学術集会講演集』p.224～225, 2003
- 【6546・E】川上品子・ルルデス, E.・宮里邦子・永田真弓「障害児をもつきょうだいの抱える問題—きょうだいと母親への面接調査から—」『日本小児看護学会第9回学術集会講演集』p.100～101, 1999
- 【6547・E】川上品子・永田真弓・宮里邦子・田中義人「障害児のきょうだいの思い—3年後の面接調査の1例—」『第48回日本小児保健学会プログラム講演集』p.536～537, 2001
- 【6548・E】菊地篤子「幼児期におけるふたりきょうだいの第二子の生活実態に関する事例的研究」『日本保育学会第58回大会発表論文集』p.972～973, 2005
- 【6549・E】木口美香・西脇由枝・熊木孝子「NICU入院児の同胞のストレス反応と同胞に関する母親の認識—入院中から退院後の変化—」『第12回日本新生児看護学会講演集』p.92～93, 2002
- 【6550・E】木島伸彦・菅原ますみ・菅原健介・酒井 厚・眞榮城和美・詫摩武俊・天羽幸子「双生児の個性の発達に関する縦断的研究（2）—Cloningerのパーソナリティ理論に関して—」『日本双生児研究学会第14回学術講演会一般講演抄録集』p.4, 2000（（1）は【5553・E】、（3）は【6572・E】）
- 【6551・E】北岡英子・杉原一昭「双子育児の実態と育児支援に関する研究」『第47回日本小児保健学会講演集』p.302～303, 2000（『小児保健研究（第47回日本小児保健学会・一般演題）』60巻2号, p.249, 2001（詳細は【5322・5323・C】に掲載）
- 【6552・E】北村弥生・上田礼子「慢性疾患患児のきょうだい関係」『国立身体障害者リハビリテーションセンター研究紀要（平成9年度第14回センター業績発表会抄録）』18号, p.60, 1998
- 【6553・E】北村弥生「知的障害児の同胞の自己概念と意識」『第76回日本社会学会大会要旨集』p.107, 2003
- 【6554・E】北村弥生・上田礼子「知的障害児の親の自己概念と健常な子どもへの対応」『日本心理学会第67回大会発表論文集』p.272, 2003
- 【6555・E】北村弥生・上田礼子・徳井亜加根「知的障害児のきょうだいを対象としたワークショップの試行」『第20回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会資料（予稿集）』p.76, 2003
- 【6556・E】北村弥生・上田礼子「障害児のきょうだい支援ワークショップの効果」『第21回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会資料（予稿集）』p.106, 2004
- 【6557・E】北村弥生・上田礼子「知的障害者のきょうだいを支援するためのワークショップに対する参加者と提供者による評価」『日本保育学会第58回大会発表論文集』p.924

～925, 2005

- 【6558・E】北村弥生・上田礼子「知的障害者の同胞を支援するためのワークショップへのスタッフの評価—スタッフが同胞であるか否かによる相違—」『日本発達障害学会第40回研究大会発表論文集』p.155～156, 2005
- 【6559・E】金 壽子・山本美智代・長田久雄「障害者のきょうだいの抱える問題について—きょうだいと母・父同席の面接事例を通して—」『第1回東京保健科学学会学術集会抄録集』1998（詳細は【1597・C】に掲載）
- 【6560・E】工藤綾子・遠藤芳子「母親が付き添うことによる入院児の同胞の反応と家族の対応」『日本小児看護学会第14回学術集会講演集』p.172～173, 2004
- 【6561・E】工藤里香・中山美由紀・永島すえみ・森川香織・井端美奈子・吉川彰二・大平光子・古山美穂・末原紀美代・山中久美子「慢性疾患の子どもとそのきょうだいをもつ母親のストレスとサポート」『家族看護学研究（日本家族看護学会第12回学術集会抄録集）』11巻2号, p.54, 2005
- 【6562・E】工藤里香・中山美由紀・森川香織・末原紀美代「慢性疾患児とそのきょうだいをもつ母親の心理的健康度」『女性心身医学（第34回日本女性心身医学会学術集会プログラム・抄録集）』10巻2号, p.44, 2005
- 【6563・E】黒川雅幸「小学校における出生順位によるきょうだい特性の表出について」『日本社会心理学会第44回大会発表論文集』p.536～537, 2003
- 【6564・E】月僧厚子「上子を家族立ち会い出産に参加させた母親の体験に関する研究—妊娠末期から産後1ヵ月まで追跡して—」『日本助産学会誌（第14回日本助産学会学術集会集録）』13巻3号, p.90～91, 2000（続報は【6565・E】。【6712・F】の要旨を報告。詳細は【6321・C】にも掲載）
- 【6565・E】月僧厚子「上の子どもを家族立ち会い出産に参加させた母親の体験に関する研究—出産から3年後の母親への面接調査より—」『日本助産学会誌（第17回日本助産学会学術集会集録）』16巻3号, p.88～89, 2003（前報は【6564・E】。詳細は【6321・C】に掲載）
- 【6566・E】侯 桂芳「中国における一人っ子の心理—親の養育態度と子供の性格—」『中国四国心理学会論文集』31巻, p.61, 1998
- 【6567・E】古株ひろみ・泊 祐子・竹村淳子・石川清美「二時点における障害児とそのきょうだいの相互作用の変化—4事例の遊び場面の分析を通して—」『日本看護学会近畿・北陸・中国・四国地方会第12回学術集会講演集』p.37, 1999（「石川清美」は「田中清美」の旧姓）
- 【6568・E】小島 宏「若年未婚男女の兄弟姉妹構成と就学・就業行動」『日本経済学会2002年秋季大会報告要旨』2002
- 【6569・E】小島 宏「一般的理想子ども数の規定要因—人口問題意識調査（1990/1995）と

JGSS-2000の比較分析—『第75回日本社会学会大会要旨集』2002

- 【6570・E】小島康生「二人の子どもをもつ母親に特有の育児感情」『日本心理学会第69回大会発表論文集』p.1163, 2005
- 【6571・E】小平幸春「きょうだい（双子）の不登校事例改善への対応—「きょうだい」の意味を考える—」『日本カウンセリング学会第30回大会発表論文集』p.212~213, 1997
- 【6572・E】酒井 厚・菅原ますみ・眞榮城和美・木島伸彦・菅原健介・詫摩武俊・天羽幸子「双生児の個性の発達に関する縦断的研究（3）—親子相互の愛着感に関する検討—」『日本双生児研究学会第14回学術講演会一般講演抄録集』p.5, 2000（（2）は【6550・E】、（4）は【6627・E】）
- 【6573・E】境 瞳・黒田真子・生田健二・多田由紀子・今塩屋隼男「障害児・者のきょうだいについての一考察」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.684, 2004
- 【6574・E】佐藤伊織・上別府圭子・星 順隆「小児がんで亡くなった子どものきょうだい—青年期女性の語りにみる悲哀の仕事—」『家族看護学研究（日本家族看護学会第11回学術集会抄録集）』10巻2号, p.106, 2004（詳細は【6330・C】に掲載）
- 【6575・E】佐野和香・我部山キヨ子「第2子誕生周辺期における母親の第1子への関わり—妊娠期と産褥期の比較—」『母性衛生（第45回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集）』45巻3号, p.152, 2004
- 【6576・E】柴山宏美・桑森恵美・中山美奈「入院患児を持つ家族の生活の変化について」『第25回東京医科大学病院看護研究集録』p.59~62, 2005（きょうだいの変化についても調査）
- 【6577・E】渋谷田鶴子・Lukens, E.・伊藤順一郎・大島 巖「精神障害者のきょうだいに関する日米比較研究」『家族療法研究（第21回日本家族研究・家族療法学会抄録集）』21巻1号, p.33, 2004
- 【6578・E】新谷満千子・谷 嘉代子「心身症の症候と同胞関係」『日本保育学会第28回大会研究論文集』VI-602, 1975（VI-602は発表番号。論文集にページは付けられていない）
- 【6579・E】菅野幸恵・岡本依子・高橋千枝・青木弥生・川田暁子・亀井美弥子・川田 学・東海林麗香・石川あゆち「母親の語りにみられる第2子誕生前後の母子関係—縦断的研究からみる親子関係（20）—」『日本発達心理学会第16回大会発表論文集』p.613, 2005
- 【6580・E】菅野幸恵「子どもが2人以上いる母親の語りにみる親子関係—子どもの出生順位・性別構成をどうとらえるか—」『日本教育心理学会第47回総会発表論文集』p.675, 2005
- 【6581・E】菅原ますみ・酒井 厚・木島伸彦・菅原健介・眞榮城和美・詫摩武俊・天羽幸子「双生児の個性の発達に関する縦断的研究（1）—子どものパーソナリティおよび

び問題行動の発達との関連—」『日本双生児研究学会第16回学術講演会一般講演抄録集』p.13, 2002 ((2) は【6628・E】)

- 【6582・E】菅原ますみ・酒井 厚・眞榮城和美・木島伸彦・菅原健介・詫摩武俊・天羽幸子「双生児の個性の発達に関する縦断的研究—子どものパーソナリティおよび問題行動傾向に影響する環境要因についての検討—」『日本双生児研究学会第17回学術講演会一般講演抄録集』2003
- 【6583・E】杉浦孝子・赤崎久美子・池田和香子・鈴木亜紀・本田陽子・渡辺ひろ子「家族の発達におけるきょうだいの役割—きょうだい面会を通しての学び—」『第14回日本新生児看護学会講演集』p.98~99, 2004
- 【6584・E】諏訪久美子・片岡里美・太田尚子・村井文江・小松美穂子「子どもの数の決定に関係する要因」『母性衛生 (第31回日本母性衛生学会一般講演要旨)』31巻4号, p.535~536, 1990
- 【6585・E】諏方智広・渡部匡隆「発達障害児のきょうだい支援の構築に向けて—自閉症児のきょうだいの支援の現状ときょうだい会に関する予備的検討—」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.229, 2004
- 【6586・E】諏方智広・渡部匡隆「自閉症児のきょうだい支援の構築に関する実践的検討—きょうだい会を通しての支援の効果の検討—」『日本特殊教育学会第43回大会発表論文集』p.725, 2005
- 【6587・E】高瀬絵理・大熊保彦「家族イメージ法 (FIT) における距離の意味—同一家族のきょうだいのFITの比較から—」『日本家族心理学会第22回大会発表論文集』p.23~24, 2005
- 【6588・E】高橋かほる「長子に関する環境その他の比較的考察—幼稚園における行動実態より—」『日本保育学会第30回大会研究論文集』p.67, 1977 (詳細は【1892・D】に掲載)
- 【6589・E】田川久美子「障害児とともに育つきょうだい児と親の意識—家族関係の影響と家族がかかえる問題について—」『リハビリテーション研究紀要』(横浜市リハビリテーション事業団) 11号, p.127, 2001
- 【6590・E】竹村淳子・古株ひろみ・泊 祐子・石川清美「障害児とそのきょうだいの相互作用について (2)」『第5回日本家族看護学会学術集会講演集』p.28, 1998 (『家族看護学研究 (第5回日本家族看護学会学術集会抄録)』5巻1号, p.55, 1999) ((1) は【2386・E】。【1465・C】の一部を報告。詳細は【1466・C】に掲載。「石川清美」は「田中清美」の旧姓)
- 【6591・E】立山清美・山田 孝「心身障害児をきょうだいにもつ健常児に関する研究—予備調査としての面接から—」『第17回近畿作業療法学会学会誌』p.24~25, 1997 (【1441・C】の一部を報告)

- 【6592・E】立山清美・宮口英樹「発達障害児が『きょうだい』に及ぼす影響」『作業療法（第39回日本作業療法学会誌・一般演題）』24巻特別号，p.106，2005
- 【6593・E】田中廣人「兄妹の相次ぐ不登校に悩む母親への援助」『日本カウンセリング学会第35回大会発表論文集』p.89，2002
- 【6594・E】坪田明子・玉里八重子「母親の第1子に対する養育意識とその影響要因（第1報）—第2子妊娠各期における分析—」『母性衛生（第45回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集）』45巻3号，p.152，2004（第2報は【6595・E】）
- 【6595・E】坪田明子・玉里八重子「母親の第1子に対する養育意識とその影響要因（第2報）—第2子妊娠各期における分析—」『母性衛生（第45回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集）』45巻3号，p.153，2004（第1報は【6594・E】）
- 【6596・E】遠矢浩一「自閉症児の『きょうだい児』の同胞との遊び場面における関わり方と意識性」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.686，2004
- 【6597・E】泊 祐子・大槻知子・古株ひろみ・石川清美・竹村淳子・大西孝子「障害児をもつきょうだいの相互関係について—ビデオの分析より—」『第4回日本家族看護学会学術集会講演集』1997（『家族看護学研究（第4回日本家族看護学会学術集会一般演題抄録）』4巻1号，p.63~64，1998）（【1465・C】の一部の報告。「石川清美」は「田中清美」の旧姓）
- 【6598・E】泊 祐子「双子の一方に障害児をもつ母親の役割取得過程における相互作用」『家族看護学研究（日本家族看護学会第10回学術集会抄録集）』9巻2号，p.85，2003（【6343・C】の一部を報告）
- 【6599・E】泊 祐子「双子の一方に障害児をもつ母親の社会化プロセス」『日本看護科学学会第23回学術集会講演集』p.238，2003（詳細は【6344・C】に掲載。【6721・F】の一部を報告）
- 【6600・E】泊 祐子・豊永奈緒美「障害ある子どもを同胞にもつきょうだい研究の動向と課題」『家族看護学研究（日本家族看護学会第12回学術集会抄録集）』11巻2号，p.33，2005
- 【6601・E】中尾秀子・大川原千代子・山本美智代・河野和代「入院中のきょうだいの生活—第1報。日常生活と学校生活について—」『日本小児看護学会第13回学術集会講演集』p.226~227，2003
- 【6602・E】永澤優子・福島 敬・田中竜太・岡本美穂・佐藤 寛・清水崇史・松井 陽・新井邦二郎「白血病患児の家族内ストレスがきょうだいのチックとして現れた事例に対する心理療法」『小児がん（第20回日本小児がん学会・第46回日本小児血液学会同時期開催プログラム・総会号一般ポスター）』41巻3号，p.661，2004（同一内容の抄録は【6603・E】にも掲載）
- 【6603・E】永澤優子・福島 敬・田中竜太・岡本美穂・佐藤 寛・清水崇史・松井 陽・新

井邦二郎「白血病患児の家族内ストレスがきょうだいのチックとして現れた事例に対する心理療法」『日本小児血液学会雑誌（第46回日本小児血液学会・第20回日本小児がん学会同時期開催プログラム・総会号一般演題）』18巻4号, p.400, 2004
 (同一内容の抄録は【6602・E】にも掲載)

- 【6604・E】中田景子・藤丸千尋・光武桂子・江口春彦・稲田浩子「母親付き添いが小児がん入院児の同胞に与える影響—同胞の集団生活の場で起きた不適応行動に焦点を当てて—」『小児がん（第18回日本小児がん学会プログラム・総会号一般演題）』39巻3号, p.457, 2002（詳細は【5360・C】に掲載）
- 【6605・E】中田 栄「幼児の自己統制行動に関する研究（その3）—幼児の年齢・出生順位と自己統制行動—」『中国四国心理学会論文集』28巻, p.56, 1995（（その3）以外は対象外）
- 【6606・E】中田 栄「幼児の Self-regulation の発達—行動の Self-regulation の発達と出生順位との関係を中心に—」『日本家政学会第47回大会研究発表要旨集』p.114, 1995
- 【6607・E】中田 栄「幼児の自己統制の発達と諸要因との関係（Ⅱ）—特に幼児の自己統制行動・出生順位と親の養育行動との関連から—」『日本心理学会第60回大会発表論文集』p.252, 1996（（Ⅱ）以外は対象外）
- 【6608・E】中西祐子「現代の親子関係と教育意識（2）—性・出生順位別にみた子どもへの期待, 養育態度, 教育投資—」『第75回日本社会学会大会要旨集』2002（（1）は対象外。詳細は【6346・C】に掲載）
- 【6609・E】永吉美智枝・北村弥生・渡辺輝子・赤池文子「母子家庭の終末期小児がん患児の同胞への看護師による支援」『小児がん（第20回日本小児がん学会・第46回日本小児血液学会同時期開催プログラム・総会号一般ポスター）』41巻3号, p.661, 2004
 (同一内容の抄録は【6610・E】にも掲載)
- 【6610・E】永吉美智枝・北村弥生・渡辺輝子・赤池文子「母子家庭の終末期小児がん患児の同胞への看護師による支援」『日本小児血液学会雑誌（第46回日本小児血液学会・第20回日本小児がん学会同時期開催プログラム・総会号一般演題）』18巻4号, p.400, 2004（同一内容の抄録は【6609・E】にも掲載）
- 【6611・E】難波美絵・稲泉朋子・角屋雅子・江口真由子・松井智子・渡邊美佳・坪田明子・柳吉桂子「出産に立ち会った上子の反応と助産の役割」『京都母性衛生学会誌（京都母性衛生学会抄録集）』12巻1号, p.29, 2004
- 【6612・E】西川智子・藤本厚子・井上亜日香・前迫園子・酒井紀子・石渡澄子「周産期における子どもを亡くした家族への援助—同胞への絵本を作成したその評価—」『第10回日本新生児看護学会講演集』p.86~87, 2000（詳細は【5334・5355・5356・C】に掲載。「藤本厚子」は「川辺厚子」の旧姓,「酒井紀子」は「森口紀子」の旧姓）

- 【6613・E】西野郁子「NICU入院児の同胞への影響と母親の同胞への対応」『第10回日本新生児看護学会講演集』p.84～85, 2000
- 【6614・E】二宮明美・柳本真由子・村田恵子「在宅病児・障害児のきょうだいにおけるストレス・コーピングと家族関係」『家族看護学研究（日本家族看護学会第10回学術集会抄録集）』9巻2号, p.99, 2003
- 【6615・E】濱 純子・久保和男・余田純子「子どもにおける関係判断の研究—特にきょうだい関係について—」『日本保育学会第36回大会研究論文集』p.444～445, 1983
- 【6616・E】浜田圭子・堀切優子・遠矢浩一「障害児の『きょうだい児』がもつ同胞への意識性と家族内コミュニケーションの関連性」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.687, 2004
- 【6617・E】林 若子・伊藤亮子「『きょうだい保育』の意義と実際 その1」『日本保育学会第58回大会発表論文集』p.354～355, 2005
- 【6618・E】広瀬宏之・宮尾益知・池間尚子・奥山真紀子「アスペルガー障害児の家族機能—ある兄弟関係をめぐって—」『第90回日本小児精神神経学会プログラム・抄録集』p.21, 2003（『小児の精神と神経（第90回日本小児精神神経学会二次抄録および追加討論）』44巻1号, p.77, 2004）
- 【6619・E】藤澤啓子「イギリス人家庭における2歳児のきょうだい関係—攻撃行動を予測する要因—」『日本心理学会第69回大会発表論文集』p.1205, 2005（【6620・E】と同一観察記録の分析）
- 【6620・E】藤澤啓子「イギリス人家庭における2歳児のごっこ遊び—社会的認知能力・きょうだい関係の質との関連—」『日本教育心理学会第47回総会発表論文集』p.25, 2005（【6619・E】と同一観察記録の分析）
- 【6621・E】藤丸千尋・光武桂子・津田茂子「母親の付き添いが家に残されたがん患児家族におよぼす影響—きょうだいへの病気や付き添い理由の説明—」『日本小児看護学会第12回学術集会講演集』p.140～141, 2002（詳細は【5360・C】に掲載）
- 【6622・E】藤村真弓「長期入院児の同胞に対する実践的サポート—1年間にわたるサポート記録の分析から—」『第31回日本看護学会抄録集—小児看護—』p.110, 2000（詳細は【1528・C】に掲載）
- 【6623・E】藤村真弓・金城芳秀・石川ちえみ「長期入院児のきょうだいに対する支援システムの構築—面接2事例を通して把握したきょうだいのニーズ—」『日本小児看護学会第13回学術集会講演集』p.282～283, 2003（詳細は【6356・C】に掲載）
- 【6624・E】藤村真弓・金城芳秀・石川ちえみ・下地和子「長期入院児のきょうだいのニーズと支援システム」『第34回日本看護学会抄録集—小児看護—』p.99, 2003（詳細は【6356・C】に掲載）
- 【6625・E】布施 文・新田真弓「第2子出産時に第1子を立会い分娩させた母親の思い」

- 『母性衛生 (第45回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集)』45巻3号, p.120, 2004
- 【6626・E】堀切優子・浜田圭子・遠矢浩一「障害児の『きょうだい児』のための集団心理支援プログラムに関する研究」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.688, 2004 (【6341・C】の一部の報告)
- 【6627・E】眞榮城和美・菅原ますみ・酒井 厚・木島伸彦・菅原健介・詫摩武俊・天羽幸子「双生児の個性の発達に関する縦断的研究(4)一雙生児間にみられる自己評価の関連一」『日本双生児研究学会第14回学術講演会一般講演抄録集』p.6, 2000 ((3)は【6572・E])
- 【6628・E】眞榮城和美・菅原ますみ・酒井 厚・木島伸彦・菅原健介・詫摩武俊・天羽幸子「双生児の個性の発達に関する縦断的研究(2)一児童・思春期の自己評価に影響を及ぼす遺伝・環境要因に関する検討一」『日本双生児研究学会第16回学術講演会一般講演抄録集』p.14, 2002 ((1)は【6581・E])
- 【6629・E】松井祐美・松本久美恵・森田順子「逆隔離状況下での同胞の面会の実態」『第29回日本看護学会抄録集—小児看護—』1998 (『第29回日本看護学会論文集—小児看護—』p.79~81, 1999) (論文集では, 筆頭報告者は「松井祐美」から「松本久美恵」に, 表題の「逆隔離状況下」は「逆隔離下」に変更されている)
- 【6630・E】松崎裕子・菅谷周子「こどもの入院に母親が付き添うことで家族に与える影響」『第31回日本看護学会抄録集—小児看護—』p.14, 2000 (『第31回日本看護学会論文集—小児看護—』p.21~23, 2001) (論文集では, 表題が「母親の付き添いが家族に与える影響」に変更されている)
- 【6631・E】三原博光・田淵 創・豊山大和・宮下照子・安原佳子・小田兼三「障害者の家族の実態について—障害者の兄弟姉妹に対する両親の思いを中心に—」『日本社会福祉学会第45回全国大会研究報告概要集』p.736~737, 1997 (詳細は【1568・1569・C】に掲載)
- 【6632・E】宮野祥雄「姉に殺意を抱く男子青年—殺意発生, 殺意消失化における機序の探求と指導—」『日本心理学会第67回大会発表論文集』p.260, 2003
- 【6633・E】宮本陽子・内 正子・村田恵子「病児・障害児の同胞に関するわが国の研究の動向と今後の課題」『家族看護学研究 (日本家族看護学会第12回学術集会抄録集)』11巻2号, p.109, 2005
- 【6634・E】向川陽子・服部満生子「病児の入院時に家族が抱える問題とその支援」『第27回日本看護学会集録・小児看護』p.8~10, 1996 (きょうだいの問題も調査)
- 【6635・E】室田ようこ「不登校児をめぐる家族—兄弟関係を中心に—」『日本教育心理学会第35回総会発表論文集』p.471, 1993 (室田洋子【1577・C】と同一人物)
- 【6636・E】森越美香・恵美須文枝・杉本正子「第2子を出生した母親が認識した上の子の変化とその対応」『第11回東京保健科学学会学術集会抄録集』p.8, 2004 (【6742・

F】の要旨を報告)

- 【6637・E】八重島建二「幼児の一次的同一視（1）」『日本保育学会第16回大会研究論文集』1963（『保育学年報 1963年版』p.53～54, 1964。（2）に相当するものは【6638・E】。一次的同一視と同胞内の位置や同胞数との関係を分析）
- 【6638・E】八重島建二「幼児の同一視 II—3人きょうだいの長子の場合—」『日本保育学会第18回大会研究論文集』p.90～91, 1965（『保育学年報 1965年版』p.57～58, 1966。Iに相当するものは【6637・E】）
- 【6639・E】安村直己「兄弟で不登校に陥った家族へのアプローチ—親機能の解体と再生について—」『日本心理臨床学会第21回大会発表論文集』p.157, 2002（詳細は【5370・C】に掲載）
- 【6640・E】矢田昭子・笠柄みどり・光岡攝子「医療的ケアの必要な子どもの在宅療養がきょうだいに及ぼす影響」『家族看護学研究（日本家族看護学会第11回学術集会抄録集）』10巻2号, p.108, 2004
- 【6641・E】柳澤亜希子「自閉性障害児・者に対する母親ときょうだいの問題意識について—子育てに求められる兄弟への支援—」『日本家族心理学会第21回大会プログラム・抄録集』p.45, 2004
- 【6642・E】柳澤亜希子「自閉性障害児・者を同胞にもつきょうだいに対する親の説明のあり方に関する研究（1）—診断と母親の認識に焦点を当てて—」『日本特殊教育学会第42回大会発表論文集』p.502, 2004（（2）は【6644・E】）
- 【6643・E】柳澤亜希子「自閉性障害児・者のきょうだいへの家庭での支援のあり方に関する研究—きょうだいの自閉性障害児・者に対する認識からの検討—」『日本家族心理学会第22回大会発表論文集』p.51～52, 2005（詳細は【6370・C】に掲載）
- 【6644・E】柳澤亜希子「自閉性障害児・者を同胞に持つきょうだいに対する親の説明のあり方に関する研究（2）—問題意識から見たきょうだいに求められる情報—」『日本特殊教育学会第43回大会発表論文集』p.616, 2005（（1）は【6642・E】）
- 【6645・E】柳澤亜希子「自閉性障害児・者のきょうだいの『自閉症』に対する理解」『日本教育心理学会第47回総会発表論文集』p.530, 2005
- 【6646・E】柳澤美智子・工藤千恵美・大石昌也「長期NICU入院児の退院に向けた同胞への関わり—母親のサポーターとしての同胞の役割—」『第13回日本新生児看護学会講演集』p.52～53, 2003
- 【6647・E】山下 勲「ダウン症児の『兄弟児問題』に関する研究 II」『日本特殊教育学会第35回大会発表論文集』p.210～211, 1997（Iは【2462・E】。詳細は【6372・C】に掲載）
- 【6648・E】山本真由美「幼児の言語発達と出生順位との関連性」『日本保育学会第43回大会研究論文集』p.68～69, 1990

- 【6649・E】山本美智代「『自分のシナリオを演じる』—同胞に障害のあるきょうだいの障害認知プロセス—」『第11回東京保健科学学会学術集会抄録集』p.10, 2004 (【6746・F】の要旨を報告。詳細は【6373・C】に掲載)
- 【6650・E】吉田晴美「治療的コミュニケーションにおける『問題』の位置づけ—不登校3人きょうだいを持つ家族との面接—」『家族療法研究 (第21回日本家族研究・家族療法学会抄録集)』21巻1号, p.21, 2004
- 【6651・E】吉田弥生・奥山朝子・菅原晴美「病児の同胞に関する看護師の気がかりと認識の変化」『第35回日本看護学会抄録集—小児看護—』p.89, 2004 (『第35回日本看護学会論文集—小児看護—』p.152~154, 2005) (『論文集』では奥山朝子が筆頭者)
- 【6652・E】吉富典子・小林哲生・西 真理子「中間子は親にあまり電話しない!」『人間行動進化学研究会第3回研究発表会発表要旨』p.15, 2001
- 【6653・E】和田香譽「きょうだいの相互作用に関する研究 VIII—役割行動ときょうだい—」『日本発達心理学会第16回大会発表論文集』p.554, 2005 (VIIは【5600・E】)
- 【6654・E】渡部富美子・田崎留美・大山美樹「当院の経産婦における上の子の行動変化とその対処法」『第28回日本看護学会集録・母性看護』p.121~123, 1997